

現況景観の課題点と整備方針

◆現況イメージコンセプト

[まちから里山へのシーケンスによる景観演出]

◆まちからの導入エリア

マバシの常緑樹で囲われた閉鎖的な空間が永代通りからの視認性を遮蔽していると共に往時の軌道景観を分断している。
⇒緑道入口として開放的に見通しのよい緑道景観の創出する「まちの導入口」



◆花木のエリア

主木のミヅカキが全て除伐され花木景観の面影がない。チャドカシの発生源であるトナリキの中木やササノの生垣が多用されている。
⇒既存のハコメツバキを活かし多様なナリ種による新たな花景観を創出「マグノリアの道」



◆永代通り側からの景観

～マンション群のパufferとして街に潤いを与えている緑量のある景観～

◆人里のエリア

マンションの建設と高木類の過密状態から緑道内に日照をほぼ確保することができず植栽環境が低下している。
⇒既存のウメやサツキをベースにハコメツバキなどの農家の庭先をイメージした身近な花景観の創出「人里の花景観」



◆里山の雑木林エリア

コナラ、ヤマモジ、エゴノキを主木とした明るい雑木林景観が切り戻し剪定によって形姿の硬い景観になっていると共に、低木や生垣が高く閉鎖的である。
⇒既存のコナラやヤマモジをベースにアカシデやアオハダ等の雑木の補植による柔らかな木漏れ日の雑木林景観の創出「雑木の木漏れ日景観」



◆里山のエリア

サメイシノとイヌシデが大きく育ち過密状態となりサメイシノの生育環境を被圧している。
⇒イヌシデを萌芽更新し新たな活動空間を創出「里山の桜景観」



◆里山の雑木林(花木)エリア

主木のエゴノキがほぼ死滅し雑木の花景観としての面影が無くなっている。
⇒新規補植による雑木林景観の創出をベースにヤマザクラやアオダモ等の花木による明るい花景観の創出「雑木の花景観」



◆里山の雑木林(花木)エリア

主木のエゴノキがほぼ死滅し代替え木としてサルスベリが植栽され雑木林のイメージが低下している。
⇒既存のサルスベリをベースとした西日と乾燥に強い多様な花景観と緑陰空間の創出「人里の花景観」



◆里山のエリア

桜山をイメージしたサメイシノの並木の樹齢が高齢による腐朽衰退が進行し更新の時期を迎えている。
⇒サクラの生育環境の支障となる雑木類の萌芽更新による景観の再生「里山の桜景観」

